

# 備北ナカポツ だより

BIHOKU NAKAPOTSU NEWS  
No. **35**

令和4年  
3月1日発行

●発行所／三次市十日市東三丁目14-1三次市福祉保健センター1F TEL. (0824) 63-1896 FAX. (0824) 63-1897  
一般社団法人備北地域生活支援協会 備北障害者就業・生活支援センター  
http://care-net.biz/34/bihoku-c/ E-mail/info@bihokucenter.com

「ナカポツ」は障害者就業・生活支援センターの通称名です。

## 職場拝見



今回は三次市内で古民家を改修して宿泊施設を運営する「株」自然とともにの西尾専務と高橋指導員、そしてスタッフの久保田さんからお話を伺いました。



西尾専務（左）と高橋指導員

「株」自然とともに」について教えてください。

「株」自然とともに」は竹原市内で高齢者や障害者に対する介護・福祉事業を展開する会社で、設立して12年目になります。障害者に対する事業では「郷の駅塩町」という就労継続支援A型事業所(※)を運営しています。

「草花鳥魚の宿 三次みんなの家」について教えてください。

三次市東河内町にある築150年の古民家を改修して宿泊施設にしたものです。和室6部屋、洋間2部屋

があり、台所、風呂、トイレなども含めて約300㎡の大きな邸宅です。9人が宿泊できる1棟貸しで1泊44,000円となっています。

一度に6人が利用できるグランピング施設も併設しており、こちらは1泊13,000円です。また、宿泊だけでなく日帰りプランやイベントプランもあります。

三次市内にA型事業所を開設した経緯を教えてください。

三次みんなの家は市街地から離れた山間部にあります。豊かな自然に囲まれた古民家で、地域の皆さんと一緒に楽しむ何かをしたいと考えたとき、宿泊施設として活用することを思い立ちました。会社が福祉事業をしている関係で、A型事業所としてスタートしています。

現在の障害者雇用の状況を教えてください。

今は2名の障害のあるスタッフと1名の指導員の計3名で運営しています。仕事の内容は主に施設内外の清掃作業です。

これからの事業展開を教えてください。

まずは施設内外の清掃作業だけでなく周りの農地を使った野菜作りに取り組み始めます。また、東河内町に留まらず三次市内にある企業の軽

作業のお手伝いも行っていく予定です。それに伴いスタッフを順次募集し、10名程度の雇用を目指しています。

就業を目指している障害者へのメッセージをお願いします。

現在のスタッフの就業時間は1日4時間です。皆さんには未永く働いてもらえるよう時間を短く設定しています。仕事にはノルマや成果を求めなくてもいいため、自分のペースで働くことができます。当然ながら通院も配慮し、雇用保険と労災保険に加入します。

こうした働き方を求めている方と未永く、一緒に働きたいと思っております。



三次みんなの家

※就労継続支援A型事業所は、一般企業等での就労が困難な人を対象に、雇用契約を結んで就労の機会を提供する福祉的就労の場です。賃金は最低賃金が保障され、支援員による就労や生活に関する支援が受けられます。

## 私たち 羽ばたいています!



久保田圭子さん

勤務されてどのくらいになりますか?

昨年の11月1日からなので2月末で4か月になります。週5日、朝8時から12時までの4時間働いています。

仕事の内容はどのようなものですか?

主に施設の清掃作業です。部屋やトイレ、浴室や台所の掃除のほか、建物周辺の掃除もしています。

仕事は合っていますか?

以前はスーパーマーケットで働いていましたが、時間に追われ、色々なことを覚えるのが大変でした。ここでは自分のペースで仕事をするのができるのが自分に合っているのが楽しく働いています。

仕事をするうえで心掛けていることはありますか?

毎日、一つずつ新しいことを覚えるようにしています。例えば窓

の拭き方や畳の掃除の仕方など、指導員から教えてもらっています。また、休まずに毎日働くことを心がけています。今は一人での作業ですが、これからは農作業なども始まるため、仲間と一緒に仕事ができることを楽しみにしています。



工作中的の久保田さん

ありがとうございました。

## 事業所紹介

今回は東城有栖会が運営する風の街みやびらを訪問して、高原施設長に2020年11月にオープンした厨房棟の「Caféさん」についてお話を聞きました。

最初に社会福祉法人東城

有栖会について教えてください。

1972年に社会福祉法人東城有栖会を設立し、養護老人ホーム

東寿園を開園しました。1981年に特別養護老人ホーム東寿園を開園、2014年に風の街みやびらを開所、現在は庄原市東城町と神石高原町で、老人・子育て・障害者に関わる事業を展開しています。



高原施設長

今回は、2020年11月に開設された厨房棟の紹介をお願いします。

新しい施設は風の街みやびらの厨房棟で「Caféさん」「ありす相談事業所」「東寿園居宅介護支援事業所」を併設しています。

厨房では1日400食の食事を作ります。Caféさんがはその延長線上にあり、東城有栖会の職員に昼食を提供します。もちろん施設以外の人にも利用していただけます。

2階には個室が3部屋あります。研修室として使用したり、実習生の宿泊施設など多目的に活用しています。

Caféさんの「さん」とはどういう意味がありますか?

「さん」とは漢字表記すると「僧伽」と書きます。サンスクリット語

のsamghaを音写したもので仏道修行をする僧の集団のことです。同じ目的を持った仲間が集う場所となればと思つて名付けました。

こだわりのポイントはどこですか?

同じ目的を持った仲間が集う場所がコンセプトなので…

- ① 外から作業状況が確認できる厨房
- ② 無線LANとWi-Fiを完備しオンライン研修にも使用可能
- ③ 災害を想定した厨房
- ④ 停電時を想定したガス調理器具と非常用電源としてのPHV車両

みんながリラックスできる場所になるようにと考えました。

これからの計画が何かありますか?

障害のある方の仕事を増やせればと考えています。具体的にはB型作業所のできる仕事の種類を増やしていくことです。今までに無かった仕事を作り出すことで、多様性を引き出すきっかけを作りたいと思っています。

また、東城有栖会では現在障害者雇用率が約5%となっていますが、引き続き雇用を続けていきたいと

思っています。元気に継続して働けることが大切です。メンタル・体力・モチベーションの問題で休みがちになる人もいますが「長い目で見る、待てるものは待つ」という気持ちで雇用を継続しています。

地域の人が安心して生活される、それをサポートすることが社会福祉法人のミッションだと考えています。



ランチ



厨房棟

■取材を終えて.....

自然環境豊かな東城町にある風の街みやびらは、個性的な建物が並びゆるやかな時間を過ごせるようなイメージを抱きました。Caféさんがで職員の皆様とご一緒に昼食を摂らせていただいて「ゆるやかな時間」は職員の皆様の暖かい雰囲気にあるのだと感じました。

この人に聞きました。

東京2020パラリンピック陸上競技 やり投げで6位入賞された 白砂匠庸さんにお話を伺いました。



白砂匠庸さん

《経歴》

- ・2歳の時、農業用機械に誤って手を入れ左手関節より先を失う。
- ・高校の陸上部顧問から障害者陸上を勧められ本格的に始める。砲丸投げや走り幅跳びを経験し、2016年以降、やり投げに種目を絞って活躍中。
- ・2017年 あいおいニッセイ同和損保(株)三次支社 入社。

パラリンピック出場、6位入賞おめでとうございます。感想をお聞かせください。

「楽しくてしかたなかった!!」というのが率直な感想です。出場が決まった日から毎日が充実して、あっという間に過ぎました。緊張や不安は感じなかったです。

世界のアスリートと戦う中で得たものが二つあります。一つは、自分にはもっと成長できる可能性がある気がついたことです。もう一つは、世界レベルに対しての自分の課題を見つけることができました。

アスリートとして競技を続ける原動力は何ですか？

「自分を見てもらいたい」と思う気持ちです。十分な練習を重ねて、それを存分に発揮したい気持ちで試合に臨みます。そんな姿を見てほしい!という気持ちです。

また、応援してくださる方々の存在もあります。やり投げは個人競技なので良い結果が出ない時期が続くと一人で悩んで精神的に追い込まれます。「応援の力」に気づけたのは、現在所属しているあいおいニッセイ同和損保の大勢の職員が試合の度に応援に駆けつけてくれたことです。試合での声援に伝えるために、普段からしっかりと練習し、このことが良い結果につながります。

他には、アスリート仲間との存在です。悩みを相談しながらお互いに切磋琢磨する関係です。

競技をする中でスランプに陥った時、どのように克服しましたか。

2年間のスランプを経験しました。長いトンネルの中にいる感覚でした。やり投げをするのが怖い、練習したくない、という気持ちで毎日

練習したくない、という気持ちで毎日続いていました。そんな中でも取り組んだことは、コーチ数人からそれぞれ受けた指導内容を分析し、自分の足りない部分を補う作業です。他にも、義手開発等で連携している広島国際大学から理学療法士を紹介していただき、体幹トレーニングや体のメンテナンスをするなど、これまでに経験しなかった練習をしました。地道な取り組みでしたが着実に実力がついてきているという確信がありました。今できることにチャレンジすることでスランプを脱出しました。

最近スランプだと考えなくなりました。一つの課題であり、それに対してどのように対処するか、と前向きにとらえています。しんどい事も、努力の積み重ねでいつか実を結びと感じています。

パラリンピックが1年延期になった時も「強くなれる期間があと12か月もある」とプラスに受け止めました。

生き生きと活躍されていますが、ターニングポイントはありましたか？

思春期の頃から自分の左手に向けられる視線が気になり始めて義手を装着するようになりました。同級生も気が付かないほど隠して生活しました。気持ちが変化したのはパラ陸

上を始めてからです。パラスポーツの選手は、障害を隠すことなく堂々として自然体でした。義足でショートパンツを履いて買い物をするなど、とても自由でした。「なんだこの世界は!!」とすごく衝撃を受けました。障害をさらけ出せる環境があり、自分の障害を受け入れることができました。それからは義手を外し「これが自分なんだ」と思えるようになりました。

「自分の手」だった義手が今は「必要な時に装着する道具」です。やり投げをする時に必要な義手はガンダムをイメージして作りました。カッコイイ義手を見せてモチベーションが上がります。

コンプレックスがなくなる、と、とても強くなれるんです。他人は他人、自分は自分と考えることができます。パラ陸上との出会いで知らない世界が広がっていき、自分のやりたい事がどんどん広がっていきます。

将来の目標を  
教えてください。

パリで行われるパラリンピックに出場することです。東京パラリンピックへの出場

を目標にした時から第1章が始まったと考えていて、出場を果たした時に充実した第1章が終わりました。今はパリを目標にした第2章が始まっています。

競技ができる限りはパラ陸上を続けると決めていきます。その後は指導者になりたいと考えています。また地元の神楽や花田植えなど地域活動も続けていきたいと思っています。

ありがとうございます。  
益々のご活躍を応援しています。

新しい職員を  
紹介します。

《好きなこと》  
お城と道の駅めぐり、  
カーブの応援

.....  
澤井さんの産休の間、  
職務代行いたします。  
よろしく願いいたします。



藤定 緑

## お知らせ

### 令和3年度 第1回 障害者雇用企業等交流会報告

11月29日に障害者を雇用している企業やこれから障害者を雇用する企業の担当者を対象に交流会を開催しました。

当日は広島障害者職業センターの職業カウンセラー・川瀬雅嗣さんの講話「障害者の特性と職場定着について」を聴いた後、3つのグループに分かれて話し合いを持ちました。



川瀬さんのお話では「障害の特性を理解することの大切さ」や「障害者に対する合理的配慮」などについて理解を深めることができました。

また、グループワークでは特に合理的配慮について話し合いがされました。

企業には障害者に対する合理的配慮の提供が義務となっていますが、あくまでもそれが企業にとって過剰な負担とならないことが原則です。合理的配慮は企業の担当者と障害者がよく話し合っ、無理のない範囲でできることから進めていくことが大切です。

来年度もテーマを決めて交流会を開催したいと考えています。関係者の皆様のご参加をよろしくお願いいたします。

### 編集後記

オミクロン株の流行により、1月以降のイベントは中止せざるを得ませんでした。また、会議や研修もほとんどがオンラインでの開催となっています。

オンラインでの会議や研修は、合理的で便利な面が多くありますが、対面で話すときのような雑談はほとんどなくなりました。

会議の後のちょっとした会話の中に、とても大事な話が隠れていることもよくあります。

オンラインも活用しながら、たまには直接会って話をする大切さをつくづく感じる今日この頃です。

### センター活動実績 (令和4年2月18日現在)

● **就職者数** 428件 (H22年4月から累計)

● **企業実習** 295件 (H22年4月から累計)

就職先: 食品製造、製造業、福祉施設、運送業、病院、日用品販売量販店、農業、建設業 etc